

# 神戸だより

台湾交流支援の会 2019.4発行 Vol.18

## ＜神戸港の観光スポット：モニュメント“BE KOBE”＞ 武藤 龍雄

神戸港のメリケンパークに2017年4月に設置されたモニュメント“BE KOBE”は人気の観光スポットです。多くの観光客、神戸市民が訪れ、写真撮影を楽しんだりしていました。しかし、面白がってよじ登る人が続出、1年半ほどで白いモニュメントに汚れが目立ち、一部に亀裂が入り危険な状態になりました。このため、神戸市は2019年2月から1か月かけて修復補強工事を実施、3月半ばに完成しました。真っ白なモニュメントに再び多くの人を訪れるようになりました。



“BE KOBE”は直訳すると「神戸であれ」という意味になりますが、このマークは阪神・淡路大震災から20年を機に生まれたもので、「市民が神戸市民であることを誇りに思う気持ち」を表しています。今日も、モニュメントの前には、たくさんの人がきちんと行列を作り、順番にお気に入りのポーズでの記念写真を撮って楽しんでいます。もちろん、土足でよじ登るような人はいません。



## ＜神戸国際コミュニティセンター(KICC)＞ 桑田 邦憲

神戸は観光都市で毎年多くの国の観光客でにぎわいます。

昨年訪日総人数の1位は韓国、2位中国、3位が台湾で480万人が日本を訪れました。台湾は第3位ですが国別の人口から見れば5に1人が日本を訪れたこととなります。

一方観光客の他に5万人近くの外国人が市内に住んでおり、台湾出身者も約1400人が神戸に在住しています。日本への留学生や日本人と結婚して来た人、家族で日本に引っ越してきた人、仕事で日本にきた人など目的は色々ですが、その中には日本語や日本の事情に詳しくない人が沢山います。そうした人の為に神戸国際交流センター(KICC)では6言語による市政・生活情報の提供、生活相談や国際交流促進のための様々なサービスを提供しています。そのうちのひとつとして日本語学習のサポート(支援)が有ります。ここでは1週間に2時間、6ヶ月のあいだ日本人のボランティアと一緒に無料で日本語を勉強することができます。全く日本語が話せない人から上級者まで2018年末で58カ国、533人の外国人の人がKICCで勉強を続けており、台湾からの留学生や台湾出身の主婦なども



(日本語学習の様子)

毎年50人ほどがここに通っています。教科書や学校であまり勉強できない日常会話はここでの勉強が大いに役にたっているようです。

## < 神戸医療産業都市 > 小高 功

今回は、神戸医療産業都市の紹介です。

神戸市は、1995年1月17日の阪神・淡路大震災で大被害を受けた神戸の経済を立て直すため、1998年10月、神戸医師会、国立病院及び大学病院を巻き込んだ「神戸医療産業都市構想懇談会」を神戸市役所に設置し、震災復興事業として「神戸医療産業都市構想」を計画しました。

神戸港にある人工島・ポートアイランドに先端医療技術の研究開発拠点を整備し、21世紀の成長産業である医療関連産業の集積を図り、神戸経済の活性化に市民の健康・福祉の向上を目指したもので、合わせて近隣アジア諸国への貢献を目的としたものです。

昨年20周年を迎えましたが、現在約350の先端医療の研究機関や高度専門病院、医療関連企業の集積が進み、日本最大のバイオメディカルクラスターに発展しています。

益々高度化するがん治療、最近具体的な治験が多数発表されているiPS細胞を活用した再生医療等々が、こどもから高齢者までの多くの患者に提供されています。

外国人に対する治療サービスも昨年10月よりスタート、中国、台湾、タイ、マレーシア等東南アジアの方々を中心にたくさんの問い合わせが来ており、既に数件の実績が出て来ております。

神戸大学の附属病院に海外患者対応窓口としてIPRD(International Patient Reception Desk)が設置されており、[imcc@med.kobe-u.ac.jp](mailto:imcc@med.kobe-u.ac.jp)

へのメールでコンタクト出来ます。日本のビザ取得、日本国内での移動・宿泊から病院との交渉まで必要な多くのサービスを提供する会社も既に神戸市より認定されています。



神戸大学医学部附属  
国際がん医療・研究センター



神戸市立医療センター  
中央市民病院 救命救急センター



神戸低侵襲がん医療センター



神戸市立神戸アイセンター病院

